

## 新刊ニュース

### \*バッハ新全集のリニューアル版“ロ短調ミサ”

新バッハ全集のシリーズ 2/1 は「ロ短調ミサ」の巻です。戦後まもなくスメントというプロテスタント神学者（音楽学者でもある）は「ロ短調ミサは存在しない」という説を主張しました。つまりルター派のバッハがカトリックの典礼音楽を書くわけがない、どこかの教会から委嘱された形跡もない、各楽章は別々に違う時期に作曲されている、ゆえに「小ミサ」（キリエとグローリア）、「ニケア信教」、「サンクトゥス」、「オザンナ」、「ベネディクトゥス」、「アニュス・デイとドナ・ノビス・パーチェム」というバラバラのタイトルのもとに新全集は出版されました。しかし、最近の研究ではやはりバッハはひとつのミサ曲として考えていた、という学説が有力になり、特定の宗派には属し得ないエキュメニカルな宗教音楽であるとバッハ研究所は結論しています（資料室便り 23 号参照）。その考えを反映してリニューアルされた楽譜を受け入れました。

### \*コルナゴ全集

Recent Researches in the Music of the Middle Ages and Early Renaissance, 15:  
Johannes Cornago: Complete works (A-R Editions)

コルナゴ Johannes Cornago (c1400-1474) という作曲家はデュファイとほとんど同世代のスペインの作曲家です。シチリア民謡に基づくミサ曲 *Missa Ayo visto lo mapamundi* が有名です。「私は世界地図も海の地図も見たことがある。しかし世界中で最も美しいのはシチリアだと思ふ」というのがもとの民謡のテキストですが、彼はこれを「我らの王妃、聖母マリアによせるミサ」とタイトルに記してミサ曲にしています。フランシスコ会の重要な拠点であったパリ大学で学位をとり、後にフランシスコ会に入会します。

### \*礼拝音楽研究、10号（2010）

キリスト教礼拝音楽学会誌の最新号です。主な記事は

- |                      |             |
|----------------------|-------------|
| ・山本直忠の聖楽劇            | 大津磨由美       |
| ・日本人のオルガン作品          | 佐々木悠        |
| ・ビルゼンノささげのオラショ       | エヴァルト・ヘンゼラー |
| ・石丸新著「讚美歌に見られる天皇制用語」 | 吉田幸弘        |

杉本ゆり記